

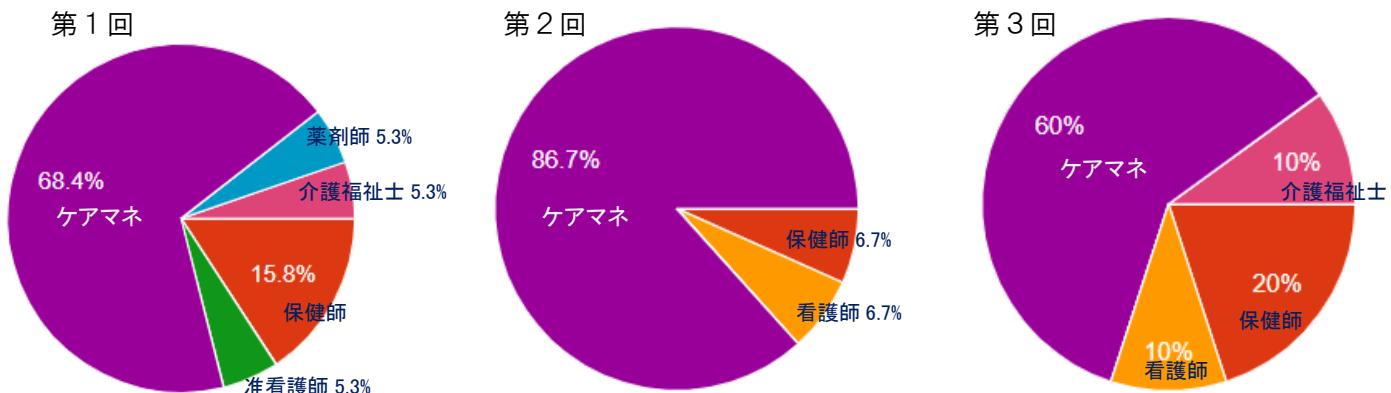
関係者各位

大川地区医師会
在宅医療・介護連携支援センター令和7年度在宅医療・介護連携推進事業 医療・介護関係者の研修会
「人生会議サポーター養成講座」報告について

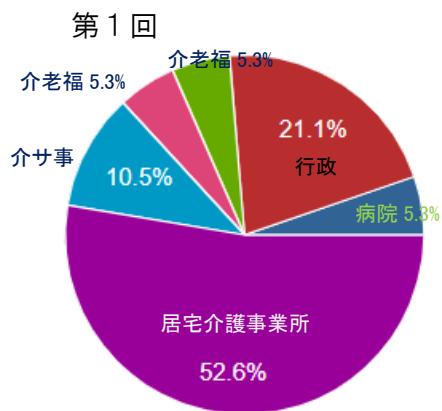
令和7年度 在宅医療・介護連携推進事業 医療・介護関係者の研修会「人生会議サポーター養成講座」を下記の通り開催いたしましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 第1回目 令和7年10月20日（月） 13:30～15:30
第2回目 令和7年11月14日（金） 13:30～15:30
第3回目 令和8年 1月19日（月） 13:30～15:30
2. 場 所 さぬき市寒川庁舎3階 301・302会議室
3. 内 容
 - (1) 第1回 テーマ：人生会議（ACP）サポート 基礎編①
～基礎学習と「レッツトークカード」を活用した価値観、ワークの体験～
 - (2) 第2回 テーマ：人生会議（ACP）サポート 基礎編②
～サポートのタイミングや方法～
 - (3) 第3回 テーマ：人生会議（ACP）サポート 実践編
～事例から学びを深めよう～
4. 対 象 大川地区医療機関（医科・歯科・薬局）、介護事業所、居宅介護支援事業所、入所施設
地域包括支援センター職員、在宅医療・介護連携推進協議会委員
5. 参加人数 全体49名 ・ 第1回42名 ・ 第2回42名 ・ 第3回42名
※修了証書授与者 37名
6. アンケート結果 第1回 回収数19名（回収率 45%）
第2回 回収率15名（回収率 36%）
第3回 回収率10名（回収率 24%）

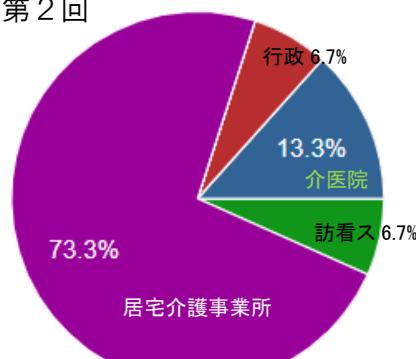
1) 受講者状況 <職種>



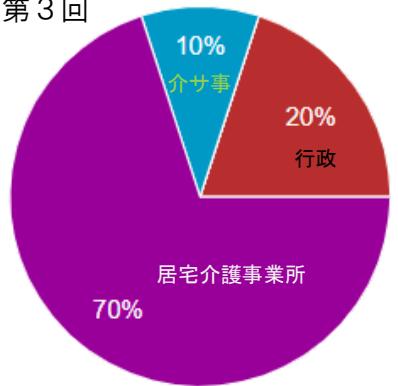
＜所属施設＞



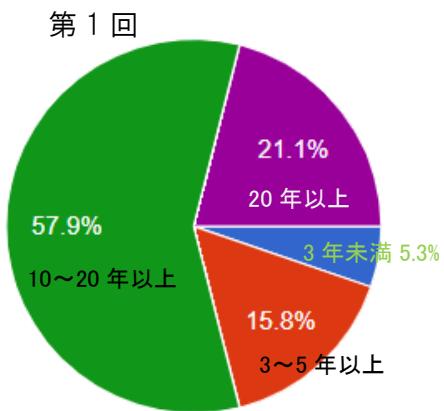
第2回



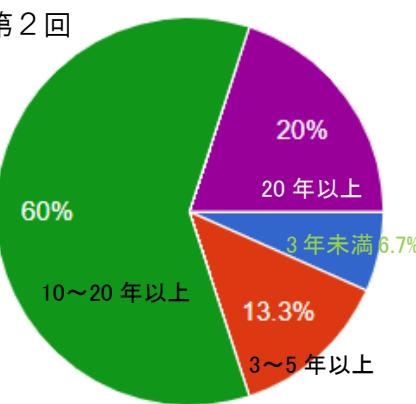
第3回



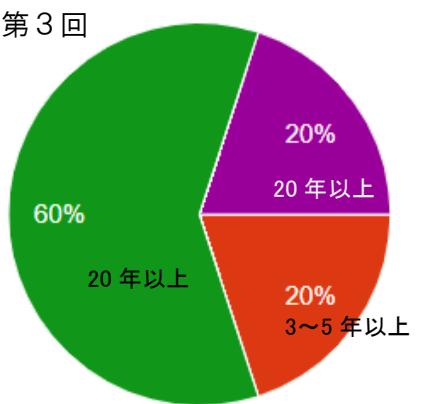
＜経験年数＞



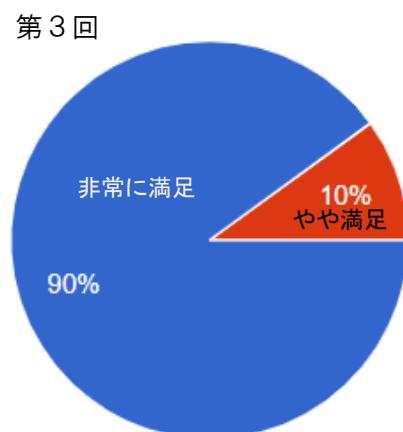
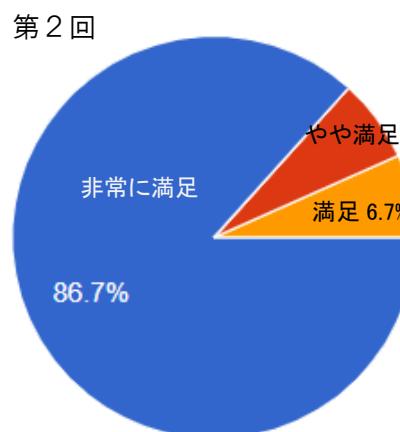
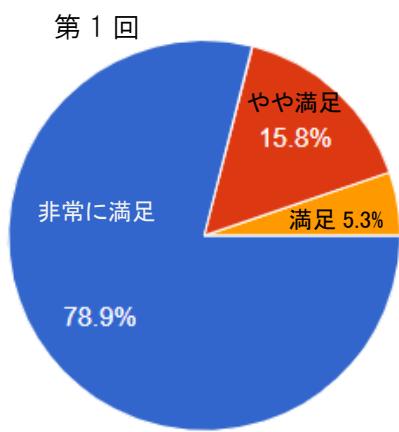
第2回



第3回



＜研修会の満足度＞



2) 研修会に関する意見や感想

第1回目

- ・ACPは日頃から実施する対話のプロセスであり、ACPで話し合う内容もよくわかりました。レツツトークカードでは今現在の自分にとって大切な価値観が改めて感じられました。同時に将来の自分の価値観も変わってくるだろうなと思いました。自分が選んだカードや捨てたカードを家族に知ってもらうだけでもACPのきっかけになると思いました。
- ・価値観を明確にすることや、話を聞くことなど、支援ノートを介して深い意味合いを改めて学びました。今年度、家族のターミナル期のかかわりもあり、以前とはまた違う感じ方をしています。
- ・常々終活やエンディングノートを作成していく中で、いざという時どうなのかと疑問に思っていました。講義の中で人の気持ちは変化するもの、とおっしゃられたことに共感し、都度本人の今の気持ちを確認していくことが大事であると感じ、またその難しさを学びました。
- ・我が身に置き換えての演習は新鮮でした。
- ・人生会議についての勉強会には、初めて参加したので、大変勉強になりました。カードを使ったワークもグループの皆さんと楽しく行うことができて、自分の大切にしているものが分かり、有意義な時間が過ごせました。

- ・意思決定する側、受ける側共に、大変な作業を請け負う事の責任を感じました。次回の研修では、そのスキルを学ぶ事ができることを楽しみにしたいと思います。今までしてきたことを振り返る機会になりました。
- ・ACPをきちんと開催したこと（参加したこと）はありませんが、自分が発する言葉が誘導や確定させることになってはいけないと思い受講しました。今日の定義や会議の目的がはっきりと理解できました。次回以降も知識を深めたいと思います。
- ・ケアマネをしているので、延命治療しないなど、今の時点で娘に伝えています。身辺整理もしているので、カードゲームしたときは、自分が考えていることがカードにでたと思いました。
- ・ACPは希望のサービスを決めるための書類ではなく、価値観をもとに望む終末を話し合うことだと理解できました。
- ・タイミングや積極的傾聴、声かけ例など、自分の普段の姿勢や方法を振り返り、少し深掘りして考える機会になりました。ありがとうございます。
- ・人生会議について、大切にしたいこと、その根拠など基本から学ぶ貴重な機会になりました。講座をとおして深めていきたいと思います。

第2回目

- ・日々の業務の中で、あまりにも人生の終わりについて、終わり方について無関心な人が多いことに驚いています。「延命治療について」の考えをお尋ねすると「もうそんなにすぐに死にそうなんですか」「考えたことないです」と言われるご家族が多くいらっしゃいます。今回の研修では、そのようなご家族にどのようにアプローチしたらいいか、ということのヒントをいただけたと思いました。
- ・もっと多くの人に聞いてもらいたい話。
支援に携わる声の大きな下に左右されず、人生の最期を本人らしく迎えられる支援がしたいと改めて思いました。
- ・ACPの答えは全部正解という言葉が印象的だった。そして、日常的に聞いている話も何でもない話ではなくて、その人だからこの話なんだろうなあと思うことがよくある。動画のようなドラマのような話もあるし、そうでなくて安全第一が選ばれる事もあると確かにと思った。
- ・雑談の中でACPの話をしていることがある。それに気づける感度があるかどうかが大切だと感じました。
- ・研修にて、うなずき等の積極的傾聴により、相手より情報を得られるきっかけを作りながら信頼関係を作っていくべきだと感じました。
- ・対象者の気持ちを引き出し、真に望むことが何かを察するための質問のポイントを知ることができました。今後利用者と関わっていく上で参考にし、実践していきたいと思います。
- ・いつ行うか、というタイミングが難しく思っていたが、これまでの訪問で行った会話を振り返ってみるとACPの関係のある事を行っていた事に気づきました。
- ・ケアマネとして関わる中で通常のモニタリングやケアプランの見直しの時などが、ACPを行うチャンスだとわかり、特に考えることもないのだとわかりました。
また、意思表明の場ではしてほしいこと、好きなことだけではなく、してほしくないこと、嫌いなことも聞いておくのが大切だとわかりました。
同じ言葉でも人によって言葉の意味が変わってくるので、一步踏み込んで対話し、対話のスキルを上げていきたい。
- ・ACPだけに限らず、対人支援者としての基本の関わり方の再確認ができました。
援助するにあたり、往々にして、自分の考える方向性に導こうとしたり、話の腰を折ったりしていると反省しました。
- ・人生会議の重たい話ではあるが、具体的な声かけの仕方を教えてもらい良かったです。
沈黙を待って、相手の言葉をもらえるようにしたいです。

第3回目

- ・質問の言葉によって否定しやすいやしにくいがあることを学びました。
言葉を大切にし、支援していこうと思います。ありがとうございます。
- ・何気ない会話の中でご利用者様の傾聴は心がけていますが、問い合わせ方法や沈黙が大切であることを学べて良かったです。

- ・対話の基本を振り大切にしたいスキルを深める機会となりました。自身のコミュニケーションの傾向を自覚して日々の関わりを大切に取り組んでいきたいと思います。
- ・先生の説明は分かりやすく、ケアマネとして利用者さんにどう関わるかを考えさせられました。説得にならないように、受け入れられる情報量を伝えるを意識したいと思います。最後の事例で、得た情報を実際の支援に自信を持ってつなげていくのは、まだまだ難しいなと感じました。今後も学んでいきたいです。
- ・3回に分けて研修を行うことで、無理なく段階的に理解がでて良かったと思います。ACPのタイミングに関しては終末期近くになることで、タイミングを逃すことも多かったですが、今後は適切な時期に実施できればと思います。何事にも経験だと思いますので、今回の研修で学んだ知識やスキルを生かし、終活支援ノートなども活用しながら、どんどん実際にACPのサポートをしていきたいです。

7. 所感

今年度の在宅医療・介護連携推進事業 「医療・介護関係者の研修会」は、これから更に必要とされるであろう人生会議（ACP）に焦点を当て、中でもその実践に当たる医療・介護関係者が「人生会議」を正しく理解し、個々のニーズに応じたサポートを、自信をもって取り組めるように、「人生会議サポート養成講座」という形で、3回に分け開催いたしました。

講師は、県内でも「人生会議（ACP）」の第一人者であり、香川県立保健医療大学の副学長でもいらっしゃいます、片山陽子先生にお願いいたしました。3回の研修を重ねるごとに、学びが深まっていくことが感じられ、充実した研修会でした。第1回の基礎編①、「レツツトーカークカード」を使用した演習では、他の受講者の価値観と何故そう思ったのかを聞くことで、自分の価値観をあらためて知る機会にもなりました。（迷って選んで・・・、手元に残したカードが、今の自分の気持ちなのだと、再認識しました。）この演習は、この場だけに留まらず、それぞれ持ち帰り、家族などと会話してみると、プラスアルファもありました。第2回の基礎編②では、対話について。2人1組になっての一つ目の演習は、「相手の話を何も反応せずに、ただ聞く。」というもので、これは話が行き詰まり、会話が続けられない状況に。「相づちを打ったり、うなづきながら聞く。」「オウム返ししながら聞く。」という二つ目の演習は、受講生みんな笑顔になり、会話が弾む様子が見られました。その後の講義でも、「対話」の持つ奥深さについて学びを深めました。第3回の実践編では、これまでの研修を踏まえ、「反復と沈黙のスキル」について、より人生会議の実践者としての姿勢（コミュニケーション能力など）に近づけるような内容の講義となりました。

研修終了後の「研修会の満足度」や受講生のコメントからもわかるように、本研修の達成度は非常に高かったと感じます。8月の打ち合わせから年を跨いで今年の1月までの長期間、お忙しいスケジュールを割いて講師をお引き受けいただきました、片山先生のお陰と感謝しております。

今後も机上の学びに終わるのではなく、実践で活用できるような研修会の開催を実施していくように努め参ります。

大川地区医師会 在宅医療介護連携支援センター
在宅医療コーディネーター 木田恵美子